

令和5年度 教育事業
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業「生活自立支援キャンプ」

サマーキャンプ in 大洲

1 事業概要

松山市の児童養護施設「愛媛慈恵会」の寮生を対象に、国立大洲青少年交流の家を拠点に1泊2日のキャンプを企画した。カヌー体験や野外炊飯等を行い、自立への支援と生活習慣の改善を図るとともに、寮生にとって楽しい夏の思い出となるよう、多様な体験活動を提供した。



2 事業の目的（ねらい）

様々な経験や体験の機会が少ない児童養護施設に在籍している子供たちに、多様な体験活動を経験できる場を設ける。年齢や発達段階に応じて川や海、野外炊飯場での活動の場を提供し、達成感を味わわせることで自己肯定感の向上を図る。また、活動前後の準備や片付けを含め、幅広い年齢の仲間と協力する活動を取り入れて、協調性を高めることも目的とする。

3 企画のポイント

「自主性・自己肯定感の向上」、「仲間との協調性や相互理解」、「日常ではなかなか取り組めない季節ならではの活動」に焦点をあて、愛媛慈恵会の職員の方と協議しながら、事業内容を企画した。また、しおりにめあてを明記することで、子供たちがめあてを意識しながら活動できるようにした。めあては、進んで行動する（しおりをよく見て5分前行動を心がける）こと、自然に親しむ（海や川などの自然を見て触れて感じる）こと、友情を深める（様々な体験活動を通して、仲間と協力して取り組むことで友情をさらに深める）ことである。

4 主 催	国立大洲青少年交流の家
5 期 日	令和5年7月24日（月）～25日（火）
6 場 所	国立大洲青少年交流の家・大洲市肱川・ふたみシーサイド公園
7 対 象	愛媛慈恵会の寮生及び職員
8 参加人数	寮生 43 名（幼児～高校3年生）・職員 16 名
9 講 師	国立大洲青少年交流の家職員・研修指導員
10 日 程	

【1日目】

8:00	愛媛慈恵会 発
9:10	交流の家 着
9:30	オリエンテーション
10:00	選択活動 ①スポーツクライミング ②マウンテンバイク ③館内動物ラリー
12:00	昼食
13:00	小5以上：カヌー 小4以下：川遊び
17:00	野外炊飯（焼き肉）
19:00	花火大会（手持ち花火）
20:30	入浴
22:00	就寝



【2日目】

6:30	起床
7:00	朝のつどい
7:30	朝食
9:00	交流の家 発
9:40	ふたみシーサイド公園で海水浴
11:00	昼食・昼食後スイカ割り大会・集合写真
14:30	着替え
15:00	閉会式



11 活動内容

1日目は、午前中に選択活動として、事前に希望した活動を行った。午後は肱川で小学5年生以上はカヌーの準備・練習及びカヌー体験、小学4年生以下は川遊びを行った。その後、野外炊飯では、班で役割を分担しながら野外で焼き肉を楽しんだ。

2日目は、全体で「ふたみシーサイド公園」にて海水浴を行った。砂浜でボール遊びや海で浮かんて遊ぶ等、それぞれの楽しみ方で時間を過ごした。また、スイカ割り大会ではみんなで声を掛け合いながら挑戦した。幼児についてはスイカ柄の紙風船を用いて自分の力で割る体験ができた。

12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

***満足：90.0%** ***やや満足：10.0%** ***やや不満：0.0%** ***不満：0.0%**

- ☐ 海で浮かぶことや泳ぐことができたようになった。
- ☐ 各班の子供や職員と仲良くする機会があって楽しかった。
- ☐ 自分で行動できて良かった。
- ☐ 野外炊飯の回数をもっと増やしてほしい。

13 事業の成果（参加者の様子を含む）

館内動物ラリーでは、子供同士で相談したり話し合ったりしながら課題を達成することができた。また、通常の内容に加えて新たな課題を設けることで、昨年から引き続き参加した子供も楽しんで活動することができた。

カヌー体験ではカヌーを運ぶときに「しんどい。」という子供や、序盤で雨が降り「中止にしよう。」という子供もいたが、天候が回復して実際にカヌーに乗り始めると楽しんで取り組む姿が見られた。カヌーを横並びにつなげたり、円を作ったりする活動のときには不安な様子を見せる姿もあったが、協力して、完成した達成感を共有することができた。

野外炊飯では、火起こし、テーブルやイスの準備、野菜を切るなどそれぞれの役割を果たしながら協力して活動ができた。さらに、事前に炊いたお米でおにぎりを作り、幼児や小学校低学年の子供も準備に貢献することができた。

子供たちからは事後のアンケートで「昨年よりもいろいろな活動ができて楽しかった。」「各班や職員と仲良くする機会があってよかった。」など肯定的な意見が多くあった。楽しく活動ができたことに加えて自己肯定感の向上や達成感を感じることができ、有意義な事業となった。

14 事業の課題

課題は二つ挙げられた。一つ目は時期の選定である。対象施設参加者の事前アンケートでは水辺の活動の希望が多く、加えて学校団体の宿泊数が少ないことから7月末に設定した。他団体との調整の面では問題なかったが、大学生の試験期間と重なりボランティアが集まらず、運営は全て職員で対応することとなった。本事業はボランティアとの交流も有意義であると共に、水辺や火を扱う活動が多く入念な安全管理体制が必要のため、指導体制に余裕をもった整備ができる時期へ変更の検討が必要である。

二つ目は活動内容である。炎天下での野外活動が多く、子供たちからは「昨年よりも色々な活動ができて楽しかった。」との声がある一方で、「外にいる時間が多くてしんどかった。」や愛媛慈恵会職員からは「休憩時間が短く感じた。」との意見があった。また、事業2日目の朝発熱を伴う体調不良になった子供1名が早退した。後日、職員への聞き取りでは、睡眠不足や疲労の蓄積が考えられるとの報告があった。今後は対象施設での日常の活動量も考慮し、時間に余裕をもった活動計画が必要である。

(担当：事業推進係 八木 正汰)